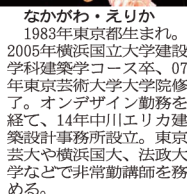


年度合格祝賀会記念)を開催。「学生時代〜現在/手掛けた作品について」をテーマに、中川エリカ氏(中川エリカ建築設計事務所)、古澤大輔氏(リライト_D、日本大学准教授)の2人が講演した。

中川 エリカ氏



当たり前新しき建

独立した設計で大きな建
型でなければならぬ。建
築を自指すことを決めた。そ
のきっかけは独立直後のキュ
ーパ旅行。キューパが自由
に、自走的に目前の空間を
使うことに衝撃を受けた。
人々が自由に開放的に動い
て美しき生活の渴望とつづ
びが爆発し独立後、初の住宅
「桃山ハウス」(静岡県岡
田)に結実していった。

と考えている。

ら建築を考えていきたい

4年生で坂倉建築研究所の藤本（隆男）先生の研究室に入った。大学院に進む、藤本先生の後任となる小泉雅生先生の研究室（青木所屬）に、藤本先生は無い（背中を見て覚えるという人、小泉先生は徹底的に開いた議論をする）。対局的岡先生は学ぶことができた。

小泉研究室の助手にオダザイの西田さん（オダ）がいた。西田さんは24歳、西田さんは28歳で事務所を立ち上げていくか、すべて記録した。当たり

初めての建築の仕事は住宅（高松町カレッジ」（東京都立川市）で鉄骨造を選んだ。鉄骨のイロハも知らなかったので毎日現場に通い、どういう人がどのように作業をしているか、すべて記録した。当たり

経験をした。2作目の木造別荘「白州山荘」（山梨県北杜市の現地で建築家として生活していく決心をした。30歳のころからどうやって建築をつくっていくべきなのか、これまで活動を振り返りながら自分の活動の方向性を模索していた。メジロス・タチオも10年がたち、リライ・Dに組織を改編した。ポインタは細線（建築）とフット（仕掛）を同軸として

活動すること。それぞれの専門領域を横断させ、それぞ

様なテーマに応答していく。

組織改編のタイミングで大

学には「転用建築論」。正し

うなには「転用建築論」。正し

一方向から少し離れ、翻って

事後的に豊かさが見られるよ

ような「ナイバージョン」

（転用）のメカニズムを研究

している。一つの世界に特定

のではなく、矛盾して

二つの世界が互いを肯定し

合う。こうした両義性の中